



# 校長室だより

令和6年度

7月1日

NO. 19

## 子供の日常にある危機に備えて、日頃より気を付けることは…



大雨が降ると、昨年の六月二日の災害を思い出します。乙川が波打ちながら激しい勢いで流れていく光景は、今も目に浮かびます。「線状降水帯」のワードも、ここ数年よく聞きます。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていますが、「災害はいつやってくるかわからない」と時代へと変わりました。

最近の暑さも、災害と言えるでしょう。「昔は、クーラーなんかなかったのに」という批判的な声も冷房導入時にはありましたが、今や、あることが当たり前になりました。昔に比べて、子供たちは守られていると思う一方、災害が昔と比べて、身近で当たり前にあるとも言えるのではないのでしょうか。

出張に出ると、市内でも子供の交通事故の話が聞きます。テレビでも事故のニュースがよく流れますが、子供に非がない事故が多いのに、胸が痛みます。歩道や横断歩道も安全とは言い切れません。通学路は学期ごとに学校でも点検はしていますが、日々の登下校は家庭や地域（通学班）の管理下にあります。秦梨の子供たちが事故なく登下校できているのも、毎日の見守り隊の方のおかげも大きいと言えるでしょう。ましてや、帰宅後や休み中の外出時は、子供の自己責任となるため、今後も「自分の命は自分で守る」ことを徹底していかなければなりません。

学校の中でも、安全を第一に考えていますが、怪我だけでなく病気も含めると何が起こるかわかりません。もちろん、命の危険な時は救急車を呼びますが、そうでなく病院に行く必要があるときには、（最近ではタクシーも少なく呼ぶことができません）保護者の方に来ていただくこともあるとご承知おきください。

二十七、二十八日には六年生が「病気」について授業を行っていました。また、防災教育にも力を入れていきます。「よく知り、よく考え、判断する」それが大事なことだと考えます。

- ・毎日、暑さの指数(WBGT)を測っています。放課や部活動など、危険な時は外で活動はしません。
- ・6/27日には学校の先生たちで、7/2には全校で不審者対応訓練を行い、対応を学びます。